

横尾龍彦 瞑想の彼方



《七つの燈台》1970年頃 福岡県立美術館蔵

とき・7/15(土)～9/24(日)

ところ・2階展示室

内容・横尾龍彦は、日本とドイツを往来しながら活動し、独自の画境を深めた画家です。本展では、埼玉県秩父市のアトリエに遺された作品を中心に、初期から晩年までの作品約90点をご紹介します。

観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》

○担当学芸員によるギャラリートーク

とき・7/15(土)15:00から30分程度

ところ・2階展示室

費用・企画展観覧料が必要です。

MOMAS コレクション (収蔵品展)

とき・5/13(土)～8/27(日)

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※埼玉美術展覧会(県展)開催中(5/31(水)～6/22(木))は半額
※埼玉りそな銀行のご協賛、埼玉県立近代美術館フレンドのご協力のもと、7/15(土)～8/27(日)の期間、「埼玉りそな銀行フリーデー」を開催します。この期間は、MOMASコレクションの観覧料が無料になります。

◇セレクション:企業の支援によるコレクション

埼玉りそな銀行(旧埼玉銀行)のご支援で開館当初に収蔵された主な作品を取り上げ、当館のコレクションの形成について振り返ります。埼玉りそな銀行開業20周年に関連した展示です。



田中保《黒いドレスの腰かけている女》1920-30年

※本紙記載の展覧会やイベントは、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。



所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp
URL・https://pref.spec.ed.jp/momas/
開館時間・10:00～17:30 (展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(7/17は開館)、6/27～6/30 入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください。

交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります。
お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。
ただし、台数に限りがありますので、事前にご連絡をお願いします。



◇MOMASノ海

埼玉に、潮の薫りを。海をテーマにした作品を紹介します。

《関連イベント》

○サンデー・トーク

とき・7/16(日)11:00～11:30

内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。

費用・MOMASコレクション観覧券が必要です。

担当学芸員・五味良子

作品・スクリプカリウ落合安奈

《Blessing Beyond the Borders》2019年

アート体感ワークショップ MOMASのとびら

全プログラム事前予約制です。
当館ホームページからお申込みください。

《7月のプログラム》

7月分のお申込みを6/1(木)から受け付けます。

○工房

とき・7/1(土) 13:30～15:00

対象・小学生～大人/費用・500円

○親子クルーズ

とき・7/15(土)、22(土) 各日13:30～15:00

対象・小・中学生+保護者/費用・500円

《8月のプログラム》

8月は、『MOMASのとびら』の夏休み拡大版「サマー・アドベンチャー」を実施します。

詳細はホームページをご覧ください。

※開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みいただいても構いませんが、ご参加いただくのはそのうち1日のみとさせていただきます。また、応募が定員以上の場合は抽選とさせていただきます。ご了承ください。

※「親子クルーズ」は、MOMASコレクションか企画展のどちらかに関連した活動を行います。

「MOMASのとびら」のページ

<https://pref.spec.ed.jp/momas/MOMASのとびら>



一般展示室 (地階)

※日程・内容に変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。

※展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆5/31(水)～6/22(木)

第71回埼玉県美術展覧会(県展)……………一般展示室ほか

◆7/4(火)～7/9(日)

第28回基の会展……………一般展示室2

第33回白の会展……………一般展示室3

風景の作品展(田中 陽)……………一般展示室4

◆7/5(水)～7/9(日)

第42回埼玉県高等学校写真連盟写真展……………一般展示室1

◆7/11(火)～7/16(日)

第21回埼玉独立展……………一般展示室1

2023埼玉モダンアート展……………一般展示室2～3

明鏡止水展(付 鴻雁)……………一般展示室4

◆7/18(火)～7/23(日)

第49回埼玉二紀展……………一般展示室1～4

◆7/25(火)～7/30(日)

Sakura Isono 原島辰男 二人展……………一般展示室4

ミュージアム・ショップおすすめ商品

普段はバネ部品をつくるパネメーカーでもある遠州スプリング。生みだされる商品も本物のパネ。

今回はフルーツのような型をしたスプリングポットをご紹介します。パネの隙間を指で広げて物を出し入れします。アイデア次第でアレコレ入れてみたくなる“心も弾む”ポットです。



スプリングポットL ¥1,320(税込) 20spiral φ84mm ステンレス製

地域の企業との連携 浦和 PARCO とのコラボレーション



浦和PARCO特設会場での当館のポスター展示
(写真提供:浦和PARCO)

ご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、昨年の秋、浦和PARCO、うらわ美術館と協働し、「URAWA美術館コラボレーション 2022」を開催しました。2022年に浦和PARCOが開店15周年を迎えるにあたり、その周年事業の一環として、何か近隣の文化施設と連携企画をできないか、というご提案を当館にいただいたことが発端でした。2022年の秋に開館40周年を迎える当館にとって有難いご提案でしたので、早速検討を進め、折角の機会なので、浦和区にあるもうひとつの美術館、うらわ美術館もお誘いすることになりました。こうして浦和PARCO に先導いただき、2022年10月7日～23日の期間、同店4階の特設会場を中心に、幾つかの連携企画を展開しました。

そのひとつが、特設会場で実施した「知ろう! 発見! Our art spot!」です。当館とうらわ美術館で開催された過去の代表的な展覧会のポスターを展示し、併せて展覧会図録も閲覧できるようにし、ふたつの館の活動の軌跡を辿れるコーナーを設けました。加えて、特設会場には、当館からはミュージアムショップも出店させていただきました。

1982年に開館した当館と、2000年に開館したうらわ美術館の成り立ちや活動はそれぞれ異なりますが、同じ浦和区に共存してきた美術館です。ふたつの館が時には展覧会を共同開催するなど、共有するテーマや地域ゆかりの美術家を互いの視点から検証してきたことを改めて振り返る貴重な機会になりました。

また、PARCOのスマートフォンアプリに登録の方を対象に抽選会を行い、それぞれの館の企画展(当館「桃源郷通行許可証」/うらわ美術館「霧困気のかたち」)へご招待しました。その一方、浦和PARCOの店舗で、これらの企画展の観覧券や半券を提示すれば、割引やサービスを受けられるという相互サービスも試みました。

さらに、周年連携を記念し、若い世代からも注目を集めている、当館の収蔵作家・小村雪岱(1887-1940)の《おせん》をモチーフにした、素敵なオリジナルトートバッグの製作が叶いました。トートバッグはPARCO カード等で一定金額以上お買い上げの方にプレゼントし、その後、当館のミュージアムショップでも販売しました。

決して派手な事業ではありませんが、同じ地域にある美術館と企業/商業施設のコラボレーションが実施できたことは、これからの美術館の在り方を考えていくうえで、有意義な実践になったといえます。特に浦和区は、都心まで車で30分の距離にあって利便性が高い一方、大都市・東京の文化圏に飲み込まれがちで、地域の魅力や文化が享受されにくい難点が付きまといまいます。今回、浦和PARCOからご提案のあった地域を繋ぐ試みは、こういった難点を克服する一歩と言えるでしょう。また、それを成功させていくには、東京や他の場所では享受できない、独自性のある魅力的な活動を発信し続けることが何よりも求められるはずで。

余暇の過ごし方は多様です。都心のブロックバスター展に訪れるのもよいですが、地元の美術館でオリジナリティのある展覧会をゆっくり鑑賞した後、近くのレストランでその余韻に浸りながら食事をしたり、お酒を飲んだりする過ごし方もよいのではないのでしょうか。(H.I.)